



庁舎のご案内

登別市消防庁舎

新庁舎建設にあたって

これまで、長きにわたって市民の生命と財産を守る拠点として運用してきた登別市消防本部・消防署庁舎（昭和 38 年建設）と登別市消防署鷺別支署庁舎（昭和 59 年建設）は、その役目を終え、登別市富岸町の丘に登別市消防庁舎として新生しました。

昨今、私たちを取り巻く環境の変化などから、各種災害が激甚化・長期化・多発化している傾向にあります。

また、私たちが暮らす登別市は、最大規模の津波が襲来した場合、市内の多くの地域が浸水し、大きな被害を受けると予想されています。今般、建設した新たな消防庁舎は、この最大級の津波被害を避け、活動可能な状況になりしだい、速やかに消火・救助などの消防活動に従事できる立地を選び、恒久的な消防活動を行えるよう整備しました。

新たな庁舎には、非常用の自家発電設備や停電時にも活用できる太陽光パネルを備えたほか、実際の建物火災等を想定した本格的な訓練を行える訓練棟、防災ヘリやドクターヘリが離発着できる臨時離発着場、大規模災害時には防災関係機関が拠点として活用し、平時には消防署・消防団が合同で訓練することができる大規模・特殊災害対応エリア、消防団と消防本部・署が市内の安全を守るため密接に連携し、活動するための消防団室など、これまでの消防活動からの経験と未来への俯瞰を踏まえ、今、必要とされる機能・設備をできる限り備えました。

このほかにも 24 時間体制で活動する消防職員が男女の区別無く、安全に安心して出勤・待機することができる環境を整えたほか、防火研修や救命講習の際、市民が利用できる会議室を設置しています。

庁舎建設にあたっては、市民の皆さん、関係者の皆さんのご理解と多大なるご協力をいただき、心からの感謝を申し上げます。

この登別市が、安全で安心して暮らすことができるまちで有り続けるためには、新庁舎の建設と機能強化だけで達成できるものではありません。

これからも市民の皆さん、関係機関の皆さんのご理解とご協力をいただきながら、皆さんとともに住みよいまちづくりに挑んでいきます。



市民の安全を守る消防庁舎の設備

- ☑ 津波発生時にも対応できる立地に建設された消防庁舎。
- ☑ 消防庁舎の外壁は、長期的なコストパフォーマンスを考え、ガルバリウム鋼板を採用。
- ☑ 大規模災害にも活用できる自然にやさしい太陽光パネルを設置。
- ☑ 救助訓練、火災想定訓練が行える専用の訓練棟を新たに設置。
- ☑ 消防団の活動拠点を新たに設置。
- ☑ 消防防災ヘリ・ドクターヘリとの連携をスムーズにするヘリコプター臨時離発着場。



▲ 訓練棟



▲ 太陽光パネル

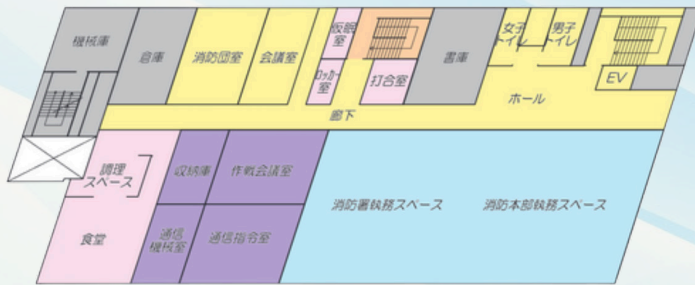


▲ ヘリコプター
臨時離発着場

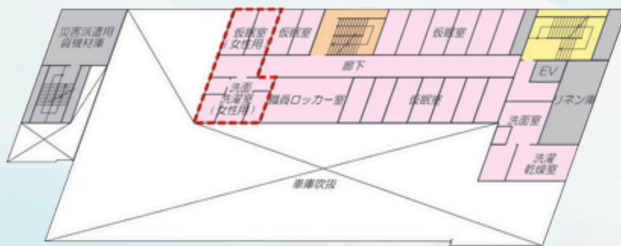


▲ 消防団室

3F



2F



1F



▲ 消防庁舎の正面玄関に消防車の朱色と同色を用い、消防施設と一目で分かるデザインを採用しています。

機能的な車庫と多用途に活用できる大会議室

1階には計8台の消防車を収容できる車庫を完備し、救急車2台をはじめ、屈折はしご車、水難救助隊用のボートトレーラー等を収容します。

また隣接する出動準備室は消防職員がスピーディーに出動できる動線を考慮し、配置されています。



▲シャッター上部に採光用の窓を設置して車庫内を明るく天井（6.5m）を通常より高く設定しています。



◀大会議室内及び大会議室前通路には、災害対策本部の設置や各関係機関のリエゾンの派遣を想定し、「平時（白）」、「太陽光専用（緑）」、「非常用自家発電機専用（赤）」の3種類のコンセントを設置し、停電時も活動の継続を図ります。



▲市民が防火研修や救命講習などにも活用でき、最大60名収容できる大会議室。大規模災害に対応できる防災備蓄倉庫も隣接しています。

誰もが安心して便利に使える館内設備



◀トイレの案内をピクトグラムで表示。

庁舎内に設置したエレベーターは、1階と3階の乗り口降り口の方向を逆にし、車いすの方をはじめ、利用者がエレベーター内で方向転換をすることなく利用することができます。

また、館内の施設インフォメーションも大きなサイズのピクトグラムを用い、わかりやすくデザイン性にも優れたものとなりました。

1階には、車いすを利用している方や障がいのある方など、どなたでも性別に関わりなく利用できるトイレを設置し、その表示についても工夫をしています。

また、車いすを利用する方が自家用車等で来館されたとき、車の乗り降りの際、雨等にぬれることのないよう、車いす利用を念頭に置いたカーポートを設置しています。



◎仮眠室などの各種設備

職員が24時間勤務するために仮眠をとる仮眠室は、職員のプライバシー等に配慮し、個室の仮眠室17室を設置し、同フロアには、職員専用のトイレとシャワー室、洗面洗濯室、ロッカーなどを配置しています。



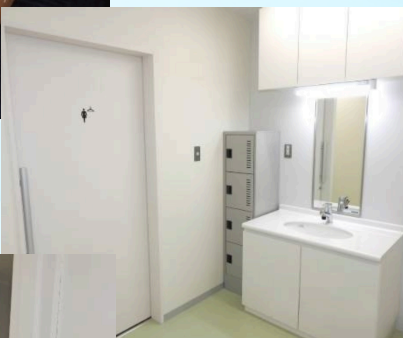
▲ 車庫から見える仮眠室の窓。車庫の高さを利用した設計となっている。

▲ 職員が利用する布団等についても個別のものを利用し、収納できる仮眠用ベッド。



◀ 2階のベッドは男女の区別無く同じデザインのベッドを使用。

▶ 女性専用の洗面所。



◀ 男性用シャワー室。

▶ 男性専用の洗面所。



◎女性専用のスペースを設置

女性職員に配慮し、女性職員の専用スペースを設け、入り口には電子キーを備え、個室の仮眠室2室を備えたほか、女性職員専用のトイレとシャワー室、洗面洗濯室、ロッカーなどを配置しています。

◎経費をおさえるための工夫

職員が待機する2階のフロアは、使いやすさを考慮した上で、消防庁舎の建設費用を抑えるため、車庫の天井の高さを利用し、2階の天井の高さを抑え、中2階的な構造になっています。

災害発生時に即応する消防の司令塔

消防本部と消防署が活動する3階事務スペースは、壁を極力設置せず、情報を共有しやすく、また職員間のコミュニケーションが円滑に取れるようにしています。

また、隣接する作戦会議室なども壁面となる部分にはガラスを用いて、透明性を確保しています。

同フロアには、消防本部や署、関係機関等が会議に利用する会議室を1室配置すると共に、24時間勤務を行う職員が利用する食堂を設置し、自炊する職員が利用する調理機器をはじめ、食事の際にも職員間のコミュニケーションが進むよう壁の色合い等にも配慮しています。

事務スペース前の廊下の採光には、自然光を取り入れるハイサイドライトを採用し、暖かなぬくもりのある日差しが来館者を照らします。



▲壁を無くし消防本部と消防署をひとつの事務室として業務の円滑化を図ります。



▲作戦会議室

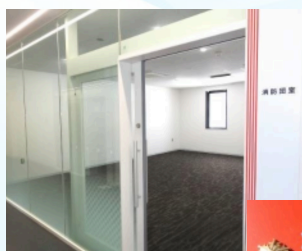
▼ハイサイドライト



▲食堂

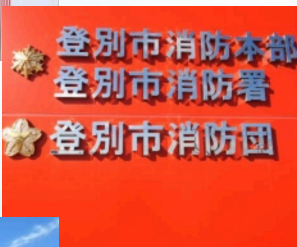


まちを守る消防団の活動拠点



◀消防団室

▶正面玄関横には本部・署と消防団を表示。



◀消防団員の訓練の様子。

人口減少が進む中、常備消防職員の確保は難しい局面を迎えることが予想されます。これまでも常備消防である消防署、非常備消防である消防団は連携して、市民の安全を守ってきましたが、これからまちを取り巻く環境は、消防署と消防団の更なる連携が必要となります。

新たな消防庁舎は玄関のイメージボードに表示しているように、消防本部と消防署、消防団が拠点とする施設ですので、新たに消防団の活動拠点として消防団室を設置し、平時の会議や災害時の消防団の活動拠点として活用します。

市民の命を迅速に守る臨時離発着場と訓練スペース



消防庁舎北側に位置する大規模・特殊災害対応エリアには、災害発生時や管内の医療機関では対応が困難な傷病者発生時に消防防災ヘリやドクターヘリが離発着できる専用の臨時離発着場を設置しました。これにより、ヘリコプターの離発着のための場所の確保や警戒対応等の時間が短縮され、速やかに対応行動をとることができます。

また、大規模災害発生時には、全国各地から集まる緊急消防援助隊や防災関係機関の車両待機場所等として活用し、平時には、常備消防の消防署と非常備消防の消防団が市民と職員・団員の命を守るために必要な訓練を連携して行うために活用されます。



▲北海道消防防災ヘリコプター「はまなす1号」

▲緊急時に使用するヘリコプター臨時離発着場。



▲職員と団員が連携して訓練を行う訓練スペース。

災害時も継続できる消防活動

消防庁舎屋上には、太陽光パネルを設置し、平時は館内の電気の一部を補い、災害等発生時に電力を失ったときには、太陽光専用コンセントを通して消防庁舎の電力の一部を補います。

また、非常用自家発電機を屋外に備え、必要最低限の消防活動を行うための館内電力を供給し、途切れることの無い消防活動を展開します。

消防車両に欠かすことのできない各種タイヤは、消防庁舎の建設経費を軽減するため、タイヤ庫を別棟とし、保管しています。

緊急車両が安全に迅速な出動をするために出動表示灯を設置しました。



▲非常用発電機



▲出動表示灯は、緊急車両の出動約1分前に文字と点滅で周囲に知らせます。



▲タイヤ庫



庁舎概要

建築面積 1,193.07 m²
延べ面積 2,804.37 m²
構 造 鉄筋コンクリート造 3 階建一部 5 階建

登別市消防本部・消防署・消防団

〒059-0028 北海道登別市富岸町 1 丁目 9 番地 8

連絡先 消防本部 TEL 0143-85-9611
FAX 0143-85-3666
Mail firedep@city.noboribetsu.lg.jp (消防本部代表)
Mail yobou-firedep@city.noboribetsu.lg.jp (消防本部予防)

消防署 TEL 0143-85-2551
FAX 0143-88-0259
Mail keibou@city.noboribetsu.lg.jp (消防署代表)
Mail shoubo@city.noboribetsu.lg.jp (消防署予防)

